



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第96号

2018年11月1日

鎮守の森保全育成基金

鎮守の森の保全・育成へ 基金を設立

「鎮守の森コミュニティ推進協議会」と

7月の西日本豪雨、8月の台風20号、9月の21号と北海道胆振東部地震。自然災害が連続しているが、いずれも社叢に多くの被害を与えた。特に2度の台風による強風は、広範囲の倒木を引き起こし、神社などの所有者の手に余る事例も多発し、社叢の荒廃がさらに懸念される事態となっている。

こうした中、社叢学会と鎮守の森コミュニティ推進協議会は、全国の鎮守の森の整備と継承、過疎地等での鎮守の森を核とした地域文化の再構築、地域活性化の支援を行うことを目指して「鎮守の森保全育成基金」を設立し、鎮守の森の保全・育成を進めていくこととした。

同基金では、社叢学会が継続している「社叢見守り隊」事業などで見出された緊急性の高い課題を抱える鎮守の森や地域社会を全国的に把握し、現況調査をもとに荒廃が進む鎮守の森の整備にあたる。さらに鎮守の森を核とした祭や伝統芸能の復活・振興による地域おこし、地域活性化の支援を行う。

社叢学会と共にこの基金を運営する(一社)鎮守の森コミュニティ推進協議会(代表理事：宮下佳廣)は、鎮守の森と地域コミュニティそして現代社会との新たな関わりを考えるシンクタンク「鎮守の森コミュニティ研究所」(所長：広井良典京都大学教授・社叢学会理事)の実践活動を担

う団体。地域住民と協力して、その地域にとって古くからの精神的なつながりの中核であった鎮守の森等の再評価を通じ、地域コミュニティを再生することによって、そこに住む人々の経済的・文化的な生活の質の向上を図り、地域の発展に寄与することを目的として、2014年3月に設立された。これまで「鎮守の森自然エネルギーコミュニティ構築支援」「鎮守の森セラピー(鎮守の森における森林療法)」等に取り組んできた。

基金では、持続的な支援のために、会員(=鎮守の森サポーター：1口3千円)や寄付を随時募集している。申し込みは社叢学会ホームページのトップページの「鎮守の森保全育成基金」バナーから。詳細の問い合わせは鎮守の森保全育成基金事務局 chinju-honbu@chinju.or.jp へ。

出光カードのポイント寄付対象に

出光カードでは、ポイント還元の一環として「鎮守の森保全育成のための寄付」を設定している。寄付(1口=200ポイント：200円)は「鎮守の森保全育成基金」を通じて社叢学会にも分配される。詳細は<http://www.idemitsucard.com/privilege/present/catalog/kouken.html>へ。

次回予告【第81回関西定例研究会】

- ◆日 時：11月24日(土) 13：00～15：00
- ◆場 所：伏見稲荷大社儀式殿(伏見区藪ノ内町68)
- ◆テ - マ：明治末期の神社合祀と神社境内の整備
～地域住民は合祀をどのように受けとめて来たか～
- ◆講 師：櫻井 治男(社叢学会理事・皇學館大學大学院教授)



住吉大社参拝と社叢研究

話題提供： 小出 英詞(住吉大社権禰宜)



(←)住吉大社四本宮の一つ第二本宮

住吉大社の象徴ともいえる反橋(そりばし)。石造の橋脚は豊臣秀吉の側室・淀君が慶長年間に奉納したものと伝わる (→)



祭神：住吉大神(一底筒男命・中筒男命・表筒男命)
神功皇后
創建：神功皇后摂政11(211)年



折れて透塀に倒れ掛かったマツ
台風被害が生々しい

翌日に台風24号の接近が予報されていた境内は、幟を片づけるなどの備えが整えられていたが、社殿に倒れ掛かった大木が屋根を壊していたり、倒木が伐採されていたりと、台風21号による生々しい被害の跡が散見された。

時折雨脚が強くなる中、小出権禰宜のご案内で境内を巡拝。反橋(太鼓橋)の急こう配の床板は、今は階段状に

なっているが、戦前は橋床に開けられた小さな穴に足先を引っかけて上り下りしていたこと、今も神輿はこの橋を渡ること、与謝野晶子が山川登美子と鉄幹を巡って歌比べを繰り広げたことなどを聞きながら、淀君の寄進と伝わる橋脚がよく見える神池を巡った。

池のほとりでは、源頼朝の側室だった丹後局が正室政子を怖れて住吉まで来たところで産気づき、石にすがって薩摩藩主島津家の祖である忠久を出産したという誕生石が今も安産祈願の信仰を集めている。両柱が四角の石鳥居をくぐり、国宝に指定されたいずれも住吉造の四本宮を参拝した。住吉造は神社建築では最古の様式の一つとされ、即位の礼で建てられる大嘗殿もこの様式。四宮はいずれも西向きで、これは航海の神として海を見守るためと考えられているという説明を受けた。

神楽殿での正式参拝の後、高井道弘宮司にご挨拶をいただき、6月に古式ゆかしい御田植神事が斎行される御田には海浜に生息するハマヒエガエリが生育し、古来、この地が海浜であったことを証明するものであるとの紹介があった。

再び境内に出て、日本三大舞台の一つで、豊臣秀頼

の寄進として有名な石舞台、「初辰さん」と親しまれている商売繁盛の守護神・楠瑠社とその周辺にある神木「千年楠・夫婦楠」、校倉造の高蔵、大阪最古の図書館ともいわれる御文庫などを巡った。

遣隋使・遣唐使が出港するなど外交上の要であった住吉津・難波津と関係し、国家的な航海の守護神として、さらに平安時代からは和歌の神として、江戸時代には広く庶民からも崇敬された住吉大社は、今も篤い崇敬を集めており、境内には多くの職業組合や団体が寄進した石灯籠を見ることができる。

さらにこの後、吉祥殿の境内が見渡せる会場で小出権禰宜から「住吉の松と社叢の変遷」をテーマに社叢の松の変遷について聞いた。

『万葉集』以来、住吉の景観を詠んだ歌には松が数多く出てくる。『伊勢物語』や『源氏物語』でも同様で、海岸と松と鳥居は住吉模様と言われ、日本の様式美の一つとなった。こうした松への思い入れはやがて信仰にまで高まり、住吉大社は和歌の神様として歌人の信仰を集めるようになる。

ところが18世紀になると大和川の付け替えによって、住吉浦にも土砂が堆積し、「岸の姫松」が後退すると同時に新田開発が盛んとなった。さらに天明年間には天候不順が頻発し、大飢饉を引き起こす一方で、住吉の老松が次々と枯死していった。これを惜しんだ有志の発願により、松苗の寄付を募る「松苗勧進」が始まったが、これは緑化運動の先駆けとも言われ、現在も4月3日に松苗神事が斎行されている。

明治になると4(1871)年の上知令、6年の住吉大社境内の公園地指定(=住吉公園の設置)、8年の公園地と境内地の分割と神社は大きく姿を変えていった。また、江戸時代から始まった新田開発に続き、近代化から高度成長に伴う大阪湾の埋め立てによって、海からは遠く隔離されてしまった。こうして白砂青松の景観は失われたが、境内から住吉公園に続く松並木は日本人の心象に深く根差す松と松のある景観への思い入れを感じさせる。



森の声を聞く

講師：堀 朋平(国立音楽大学・西南学院大学講師)
ソプラノ：川辺 茜(国立音楽大学音楽研究所助手)
ピアノ伴奏：井出 徳彦(桐朋学園芸術短期大学ピアノ専修卒)

今回は、共催の(公財)ポーラ伝統文化振興財団の協力により、いつもとは趣向を変えて講演会・上映会とサロンコンサートの2部構成での開催となった。

第1部「人を異界にさそうもの-音楽と森」

講師：堀 朋平

ビートルズのよく知られた曲の一つに『ノルウェイの森』と言う歌がある。”昔、ある娘と仲良くなった/というか、あの娘に引っかけたのかも/彼女は部屋を見せてくれた/「すてきでしょ?ノルウェイの木材よ」/(中略)/目覚めたら僕は一人だった/小鳥は飛んで行ってしまったのさ/”下線部はふつうの調性とは違うミクソリディア調で演奏される。主体をまどわす迷宮=長調をゆさぶる「旋法」(ミクソリディア)のゆれで表現している。

村上春樹の同名の小説『ノルウェイの森』では人を彷徨わせ、成長させないものとして森が登場する。

ダンテの神曲には「小暗き森」という言葉が出てくる。古代よりヨーロッパにはうっそうと落葉広葉樹の平地林がひろがり、フランスでは国土の6割以上が森であった。中世の森を描いた絵画には追剥ぎや盗賊よけの杖をついた旅人が描かれ、魔が潜む。

11世紀半ば頃から気候が温暖化し、14世紀(中世末期)には人間と自然のあらたな関係がはじまる。

『サピエンス全史』(Y.N.ハラリ 2016)に「私たちが小麦を栽培化したのではなく、小麦が私たちが家畜化した」とあるように、農業改革は人間に大きな影響を与えた。食料は4倍になり、人口は3倍に増えた。生きるために森を壊し、壊した森を再生する。森は2割に減少し、植林が行われる一方、農村では労働力が余剰し、人々は都市へと流れた。

12世紀半ばから都市ではノートルダム大聖堂が次々に建立される。Notre dame(=our Lady)とは地母神(異教)と聖母マリア(キリスト教)の融合であり、

マリア信仰は隆盛を極めた。堂内の薄暗く不気味で神秘的な気配は、昼なお暗い平地林の雰囲気を感じさせ、スタンドグラスを通して差し込む光は、森の中の木漏れ日を思わせる。都会で故郷を失った人々の絆の再生でもあった。

ロマン派の歌曲は、ピアノ(心の声)が、歌詞(現実の描写)にあらたな解釈を加えることで、立体的な音楽になると考えられ、精神と自然の交換がテーマとなっていた。自然を人間を通して捉え直し、人間の技術で、自然を自然にある時よりも美しく見せることが「芸術」となった。ところが後期ロマン派になると、自然は人間の手が届かない理想であり、自然との一致は困難(不可能)な夢なのではないかと考えられるようになっていく。

自然を破壊してきた「啓蒙思想」への批判から、人間と自然と神の交流(一致)、自然と人との交感の中世ロマン派等ある特定の時期において主流となったが、それもまた否定され、数世紀を超えて、ジャンル(絵画、詩、音楽など)をまたいで、現在も繰り返し反復されている。

第2部 サロンコンサート

ソプラノ：川辺 茜 ピアノ：井出 徳彦

1. 樹立(こだち) 作曲：山田耕筰 作詞：三木露風
2. 湖上にて 作曲：シューベルト 作詞：ゲーテ
3. 葦の歌 作曲：ベルク 作詞：レーナウ
4. ナイチンゲール 作曲：ベルク 作詞：シュトルム
5. ナイチンゲール 作曲：ブラームス 作詞：ケストリン
6. 夏の交代 作曲：マーラー 詞：民謡集『少年の不思議な角笛』より
7. 行々子(よしきり) 作曲：信時潔 作詞：清水重道
8. 菩提樹 作曲：シューベルト 作詞：ミュラー
(文責 渡邊 節子)

次回予告【第79回関東定例研究会】

- ◆日 時：1月26日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テマ：「日本のイチヨウ巨木の遺伝的変異の地域性と分散史」
- ◆講 師：片倉 慶子(千葉大学大学院園芸学専攻修士課程2年)

11月の関西社叢見守り隊は 有馬温泉へ

開催日は11月21日(水)

神戸市内に300社以上あるという神社を全て廻ろうという遠大な目標を掲げる関西社叢見守り隊。11月は西摂の霊湯有馬温泉の社叢巡りを予定している。名湯の街有馬は坂道が多く、遠足気分で歩くには少し体力がいりそうだが、紅葉の季節、終了後には公共の外湯「金の湯」「銀の湯」や無料の足湯を楽しむこともできそう。

荒天が予報される場合は、行先および集合場所を変更するので、参加希望者は事前に事務局に申し込まれたい。

- 【行先】 有馬温泉の神社
 - 【集合時間】 11月21日(水)午前10時
 - 【集合場所】 神戸電鉄有馬温泉駅
 - 【解散】 15時ごろ神戸電鉄有馬温泉駅
 - 【持ち物】 筆記用具・帽子・飲み物・弁当(駅前にコンビニあり)・あればカメラ等
- ※ ルート地図・録用紙は当日配付する

事務局から

●前号がお手元に届いた頃、京阪神は台風21号の強風と豪雨に見舞われていました。山間地の倒木被害は大きく、当学会がフィールドとしている大岩神社の社叢も一部が立ち入り禁止になっています。被害状況が把握されている社叢は復旧に向けての動きも可能ですが、山奥にひっそりたたずむ神社などでは被害状況の把握すら困難となっています。こうした中で、社叢学会に求められる役割も大きいと思います。

とはいうものの、こうした復旧支援活動を進めるためには資金が必要であるというのが現実です。学会として助成金などを得る努力をしていくことはもちろんですが、様々な方法で寄付

を集めていくことも必要です。当学会への直接のご寄付はもちろんのこと、1面でご紹介いたしました基金へのご協力もよろしくお願いいたします。

- 今年度の会費未納の方には振替用紙を同封いたしました。何かと多端な折とは存じますが、社叢学会は会費で運営しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、12月末日までに入金の確認ができない場合は、「鎮守の森だより」等をお送りできなくなりますので、悪しからずご了承下さい。退会をご希望の場合は、会員番号とお名前をご記載の上、Fax・Mailでその旨、お知らせ下さい。
銀行振込も可能です。三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 藪田稔 です。
- 下記の通り、『社叢学研究』17号への身近な活動報告と社叢を訪れた時の感想などを募集しています。「社叢訪問記」では、小さな発見、残念な思い、どんなことでも結構です。ぜひお寄せください。

編集後記

いやあ、すごかったわ、台風21号。当然自宅待機でさ、隣んちの物干し場の屋根の波板が飛んでこないかとひやひや。で、台風一過、どこのものともわからない雨樋が飛んできているし、収穫にはまだ早い銀杏が庭を覆いつくしているし。見上げればイチョウの枝が折れてぶら下がっているのではないか。これはちとキケン。社叢インストラクターのHさん(実は数年前からウチの庭担当)になんとかしてくれと電話をする。

で数日後、しばし見上げて「ちょっと登ってみますわ」って。ええ！15mはあるんじゃないかね？！と、脚立を立てて、あれよあれよで高度を稼ぎ、折れ枝を投げ落として無事着地。ひえ〜〜、大したもんやねえ。ダテに社叢インストラクター張ってないわ。
(藤岡 郁)

原稿募集中！

「鎮守の森の活動報告」(祭、音楽会、調査、ワークショップなどの実施報告、抱える問題など)や各地の「社叢訪問記」(各1,200字程度)の投稿締め切りは12月25日(火)必着です。

お気軽にご投稿ください！

* 書評欄では会員の皆さまの著作を取り上げています。出版された方は、ぜひご献本下さい

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com